

## イ. 全体会……分散会の報告とまとめ

### 4 國際交流活動研修会

#### (1) 趣旨

教育・科学・文化の分野における国際交流活動の意義を広く県民に普及・浸透させるとともに、国際交流活動を振興するうえで大きな役割を果たす指導者の育成に資する。

#### (2) 期日・会場・参加者

① 期日 昭和59年11月29日(木)～30日(金)

② 会場 石川町中央公民館

③ 参加者 社会教育関係者、学校教育関係者、国際交流事業関係者 185名

#### (3) 内容

① 主題 「国際理解・国際交流活動をどのように進めたらよいか」

② 講演 「世界の動きと日本の役割」

講師 日本公衆衛生学会理事長 辻 義人

③ シンポジウム・フォーラム

「国際理解・国際交流の進め方を考える」

講師 国際ロータリー第253地区直前ガバナー

田中善六

日本精測株式会社社長 佐藤勝夫

福島県青年海外派遣友の会会長

丹治誠

福島県ユネスコ連絡協議会理事

菅波ミノル

#### ④ 研究協議

##### ア 学校教育部会

「学校教育の中で国際理解・国際交流活動をどのように進めたらよいか」

玉川村立須釜中学校長 添田昌穂

県中教育事務所指導課長 白鳥修

##### イ 社会教育部会

「社会教育における国際理解・国際交流活動をどのように進めたらよいか」

##### 第1部会

石川町教育委員会教育次長 高木茂昌

郡山ユネスコ協会会長 佐藤信

##### 第2部会

須賀川地方ユネスコ協会会長 小松義郎

県ユネスコ連絡協議会事務局長 大越源三郎

#### ⑤ 事例発表

##### ア 「学校教育における国際理解・国際交流活動の現状と課題」

学校法人福島緑が丘学園緑が丘高等学校教諭

福井正信

##### イ 「民間における国際理解・国際交流活動の現状と課題」

須賀川地方ユネスコ協会副会長 西間木豊彦

#### ⑥ 教材映画視聴 「予言」

## 第5節 家庭教育

### 1 概要

今日の社会的諸条件の変化は極めて大きいものがあり、親にとって家庭教育をよく理解し、日常の家庭生活の中で実践してゆくことがあります重要となっている。

このため、家庭教育に関する学習の機会をもうけるとともに、その内容・方法について工夫改善に努めた。また、家庭・学校・地域の連携により一層学習の充実を図った。

まず、第一に家庭教育学級では、1小学校1学級の開設を目標とし、特に、青少年の健全育成の上から、中・高校生の子どもをもつ親を対象とした学級の増加に努めた。

また、家庭教育研究集会を開催し、学習の内容と効果的な学習の進め方について研究協議を行い、家庭教育学級の充実を目指した。

第二には、家庭教育（幼児期）相談事業を実施し、県内の3歳第1子をもつ親を対象として、はがき通信・巡回相談・テレビ放送を行いその効果を上げている。また、幼児後期の子どもをもつ親のために学習資料の提供を行ってきた。

第三には、家庭教育総合推進事業を本年度より実施し、今日の家庭教育上の課題を分析検討した家庭教育指導資料を発刊し関係機関に配布し、その活用を図った。また、家庭教育上のいろいろな問題や悩みについて、電話による幅広い相談に応じ、諸問題の解決の一助とするための「家庭教育電話相談」「すぐすぐダイヤル」を開設し相談体制の確立を図った。

### 2 家庭教育研究集会

#### (1) 趣旨

家庭教育に関する学習の機会を拡充し効果的な学習を進めるための具体的な方策について研究協議を行い、家庭教育の振興を図った。

(2) 主催 福島県教育委員会・いわき市教育委員会

(3) 期日 昭和59年5月28日

(4) 会場 いわき市内郷公民館

(5) 参加者 180名

(6) 対象 ① 市町村教育委員会・公民館等の家庭教育学級担当者  
② 家庭教育学級運営委員及び学級生代表

(7) 講師 福島大学教育学部教授 菊池章夫

(8) 研究テーマ 「家庭教育学級をより効果的に運営するにはどのようにしたらよいか」

### 3 家庭教育（幼児期）相談事業

#### (1) 趣旨

幼児（3歳第1子）の親を対象とし、幼児期の家庭教育に関する具体的な学習資料の提供と個別的な相談指導を行い、幼児期における家庭教育の充実を図る。

(2) 実施主体 福島県教育委員会

(3) 協力機関 市町村教育委員会

(4) 実施の時期 昭和59年5月～昭和60年3月

(5) 対象 県内3歳第1子をもつ親 11,573名

(6) 事業の内容

① ばかき・ちらしによる相談指導（年間5回）